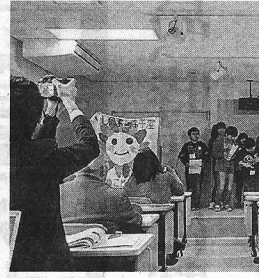


東北復興

まだまだ



げ、今があります。当初、石巻市内だけでも二百五十九カ所の避難所に五万人を超す市民が身を寄せました。私は避難所生活七カ月の後、仮設住宅生活四年六カ月、そしてよ

うやく一カ月ほど前に内陸部である大崎市内での本住まいを始めることができました。最初の七カ月、石巻高校トレーニング室での避難所生活では、子どもを基軸にする「囲わない」運営をしまし

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

熊本地震から一カ月。被災された皆さま、関係者の皆さま、心よりお見舞い申し上げます。

災害はいつ訪れるかわかりません。東日本大震災当時、小学五年生だった男の子は、昨年二月に仙台で開かれた第三回国連防災世界会議パブリックフォーラムの壇上で「全

東日本大震災圏域創生
NPOセンター
(いしのまき寺子屋)事務局長
太田美智子さん



囲わず築いたコミュニティ

てを想定内にしてください」と言っていました。写真。「3・11」でも言い伝えに従って逃げた人は助かりました。地震国の日本には歴史にその教えがあります。利便性にと

「囲わない」運営をしました。段ボールや布のパーティションなどで囲わず、二百三十一人(うち高校生までの子

あつたからです。「災害時の支援は、人の権利や尊厳を根幹に置き、物資面・心理面両輪の支援が重要」と言われま

津波に遭い、命からがら逃げた私。東日本大震災で地震と

どもが二十一人)で大家族の

私たちが大人の折れそうな心を



記

▶▶ 182

